

第 27 回 大学入試のあり方に関する検討会議について

2021 年 6 月 22 日に大学入試のあり方に関する検討会議が開催された。
10:00 から 12:00 までの予定で、文部科学省 3F2 特別会議室で行われた。
今回も前回に引き続きコロナウイルス感染拡大防止で傍聴者は認められず、ライブ配信での中継となった。160 人ほどが視聴していた。

今回の議題は以下の通りである。

1. 討議（提言（原案）について）

今回も前回に引き続き WEB 会議方式で行われ、文科省の会議室からは三島座長と川嶋委員が、その他の委員はネットを経由して参加した。事務局からは齋木委員、牧田委員が欠席、吉田委員が途中からの出席予定、小林委員が途中で退席予定であることが告げられた。萩生田大臣は 11:15 頃から 45 分程度参加した。

まず、川嶋委員が資料 1 に基づいて説明した。提言の原案は以下の 5 つの章立てからなっている。主な内容は以下の通りである。

①大学入学者選抜のあり方と改善の方向性

入試における 3 つの原則を明確にし、意思決定のあり方、今後の状況変化への柔軟な対応について言及した。

②記述式の出題のあり方

記述式問題の必要性はあるものの、共通テストで実施することは困難であり、個別試験での出題を推奨した。国は好事例を公表するなどの促進策を検討することとし、また、過去問の再利用も選択肢として提案した。

③総合的な英語力の育成・評価のあり方

これまでの「英語 4 技能」から「総合的な英語力」へと表現を改めた。英語力の育成は必要だと考えられ、初等中等教育段階から取組が進められているが、共通テストでの実施は困難であると結論づけた。個別の大学で検定試験を活用することを推奨するものの、必ずしも受験生へ強制することがないように非利用枠などの措置を講じることとした。また、国には好事例を公表したり、関係団体等による恒常的な協議体を設置したりして後押しすることを求めた。一部の大学で活用が期待されていた成績提供システムについては、各団体のデジタル化が進んでいることから、実施しないこととした。

④大学入学者選抜をめぐる地理的・経済的事情、障害のある受験者への合理的配慮等への対応

地理的・経済的事情については、共通テストにおける高校会場の拡充や入試のオンライン化を推進したり、特別選抜の実施、受験料や納付金の減免を求めたりすることで対応

する。障害のある受験生に対しては、入試だけでなく資格・検定試験においても合理的配慮を充実するよう国がイニシアティブをとって推進していく。

⑤ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入学者選抜

秋季入学について検討されているが、一般入試とは異なる基準で推進することが適当であり、共通テストをそれに合わせて変更することは適当でない。また、電子出願やオンライン面接、CBT 化など入試のデジタル化を積極的に進めていく。大学には入試の情報公開を求め、同時に国では実態調査も定期的実施することを求めた。好事例に対してはインセンティブの付与を検討すべきとし、例として運営費交付金や私学助成などの活用をあげた。さらに、入試センターの財政改善も必要であるとした。最後に、高校・大学関係者間で設置された新たな協議体において、今後も継続的に検討を行っていくことを求めた。厳格な定員管理のあり方の見直しについては大学分科会の審議に委ねた。

この後、事務局より今回追加した基礎資料について説明があった。

11:10 頃より、提言の原案について議論を行った。章ごとに時間を区切り意見を求めた。

まずは、①について委員の意見の概要は以下の通りである。

萩原委員： 高等学校での学びの評価は従来型のテストで行われるもので、資格・検定試験活用することのウェイトが高すぎる。

岡委員： 大学で公開する情報において「属性別内訳」とは何か。不要なのではないか。また、入試のオンライン実施が「相当数あった」とあるが、それほど多くないと考える。

芝井委員： 細かなワーディングが気になる。「比較考量」は「比較衡量」ではないか。大学入学者選抜における「様々な研究」とはなんのことか。

末富委員： 安心して受験できるよりよい仕組みに向けての提言であるということを明記してもらいたい。

小林委員： 提言を短くまとめた概要も合わせて作成してほしい。微妙なニュアンスが切り取られがちなので一緒に検討したい。

→（三島座長）時間がないので、座長・副座長に一任してほしい。

柴田委員： 公平・公正な合否判定について「重要である」と書かれているが「必須である」と考えるべき。意思決定のあり方のまとめについて、「議論が不十分にならないように」など表現が漠然としすぎている。

次に 11:20 頃より、②についての委員の意見の概要は以下の通りである。

島田委員： 学校教育関連の文書と平仄が揃うとよいのではないか。「創造的に表現する能力」に違和感がある。「創造的」は「創造的に思考する」という文脈でよく用いられる。

渡部委員： 記述式問題は形態が多様であると書かれているが、主要目的も多様であることを加えた方がよいのではないか。また、細かな文言の訂正については締切がいつなのか

教えてもらいたい。

小林委員： インセンティブの付与について、高等学校の修学支援新制度の機関要件で情報公開することが書かれているが、機関要件に紐づけられるというように誤解されると困る。次に、利益相反について、その対策に協議体の利用が想定されているが、その協議体には試験実施団体が含まれているので難しいのではないか。利益相反が悪いのではなく、マネジメントすることが重要である。それには査察の仕組みも必要。

岡委員： 過去問の活用については、社会全体の理解が重要であるので、高校・大学間の相互理解だけではなく、社会に対して発信していくことが必要になる。

清水委員： 全体として、大学入学者選抜関連基礎資料が参照されているが、元となる文献・原典が書かれた方がよいのではないか。

11:30 頃より、③について委員の意見の概要は以下の通りである。

小林委員： 医療系の国家試験に英語を入れる提案について、前回否定的な発言をしたが、医・薬・獣医・歯学系は大学なので、やはり提言に加えてほしい。

→（柴田委員）すでに国家試験で出題され始めており、大変喜ばしい。

岡委員： 意見の発言者として「国立大学協会」と記載があるが、団体名があるのは不自然なので削除してもらいたい。また、ディプロマ・ポリシーは普遍的なことを書いているので、そこを改善する必要はないと考える。

芝井委員： 3つのポリシーに英語力に関する内容を入れることは個人的に賛成できない。英語とは無関係な分野もある。少し書きすぎではないかと思う。また、「外国語」と「英語」の表現の使い分けについてもっと敏感に書いてもらいたい。

渡部委員： p29 の中ほどで文脈のわかりづらい箇所がある。また、英語力のニーズは専門分野に応じて異なるという記述が必要だと考える。

萩原委員： 検定試験を活用することが大前提の記載になっている。資格・検定試験は高等学校の学習状況を測るものではない。

次に 11:40 頃より、④について委員の意見の概要は以下の通りである。

小林委員： オンラインを推進するにはインフラを整えることが重要で、大学の努力だけでは難しい。国からベンダーへの働きかけをしてほしい。

末富委員：（別途提出した資料に基づいて）進学率の地域格差・男女格差の現状データを書いてほしい。分野別男女比についても提言に盛り込んでほしい。受験料の助成制度について記述を充実してほしい。学生納付金の減免に関する情報を文科省で公表してほしい。検定試験についても低所得層向けの受験料低減を国から要請するよう記載してほしい。多様な学生の受け入れの配慮例を広げてほしい。障害のある受験生が出願時に過重な負担がないようにしてもらいたい。インセンティブの付与については、懲罰的色彩がないようにしてほしい。IR において入試の妥当性を分析・公表してほしい。推薦入試の

定員が5割を超えないというルールについて厳正な指導をしてもらいたい。意思決定のあり方は改善に値するものとする。入試政策だけでなく文科省全体に汎用性があるので、この教訓を他の会議でも横展開を図ってもらいたい。

柴田委員： p35の内容は、まとめの部分を分けて最後に掲げた方がよいのではないか。

芝井委員： 一番大きなことは受験生の信頼を失ったことである。その出発の経緯を明記すべき。また、過去の経緯の中に時間をかけて振り返ったことがほとんど書かれていないので、ぜひ書いてほしい。

次に12:00頃より、⑤について委員の意見の概要は以下の通りである。

小林委員： 秋季入学については卒業とセットで考えなくてはならない。若年失業者の増加が懸念されており、提言に入れるのは早すぎるのではないか。

島田委員： 共通テストの評価について、国語の問題数及び試験時間の見直しが課題であることを書き加えてほしい。

岡委員： インセンティブの付与は運営交付金ではなく、外付けのプラスアルファで評価してほしい。また、入試センターの財政については、国からの支援を要望する。

柴田委員： インセンティブについて、公立大学についての記載がないので、書きぶりを検討してもらいたい。

最後に、全体を通しての委員の意見の概要は以下の通りである。

川嶋委員： できるだけ意見は盛り込んでいきたい。また、あいまいな表現など指摘のあった箇所も修正していきたい。

芝井委員： 国公立の差について、この現状は私大が望んだ結果ではない。入試の構造を変えないと無理なのに、私大が努力すべきだというのはおかしい。

両角委員： 会議のそもそものところを書くべきという意見には同意する。社会で求められる英語力は多様であり、企業の求めるものだけではないという点を書いてほしい。インセンティブについては、過度にならないよう好事例の情報公開をベースにするべき。

会議は15分ほど延長して終了となった。次回の第28回会議の予定については、日程調整後に決まり次第連絡することとなった。